

## 連載

## 宇宙を観じる生活を！ (14)

## ～黄華堂通信より～

黄華堂（代表：有本淳一、メルマガ編集長：鈴木裕司）

「子どもたちに本物の星空を！」をモットーに関西を中心に観望会などの活動をしているボランティアグループ、黄華堂が配信しているメルマガジン、『黄華堂通信』[1]。星空案内、天文に関する絵本の紹介から研究従事者による研究紹介、はたまたクイズや今年注目の天文現象と、いろいろな話題を提供しています。ここでは連載でメルマガの話題をごくごく一部ですが紹介しています。9月はお月見の季節ということで、今回は、『絵本で見る宇宙』と『音楽で聴く宇宙』から月に関する記事をご紹介します。

## 1. 『絵本で見る宇宙』

絵本で見る宇宙では、宇宙を題材にした絵本を毎回ご紹介しています。興味が湧いたら、ぜひ本屋さんで探してみてください。

『月へ行きたい』

松岡 徹 文・絵

(月刊 たくさんのふしぎ 2011年2月号、  
福音館書店)

月へ行きたい——誰もが一度は思うことではないでしょうか？昔から人は、どうやったら月へ行けるか考えて来ました。SFの父と呼ばれるジュール・ヴェルヌの作品『月世界旅行』は、あまりにも有名ですね。

この絵本は、男の子がどうやったら月に行けるか考えるところからはじまります。海の上に昇ったばかりの月を見て、船でこぎ出す男の子。気がつくとも月は空に…。

さあ、では次はどうしましょう？山に登れば届くかもしれない？高い建物を建てる？風船をたくさんもって空を飛ぶ？

そんなの無理だよ！ と一蹴してはいけません（笑）。考えてみることは大事です。

でも、たしかに月は遠かった。

では、どうやったら行けるのか。ちゃんと科学的な説明が書いてあります。いろいろな乗物のスピードでどのくらいかかるのか、飛行機で月まで行けない理由、ロケットのしくみ……どれもわかりやすく書かれています。見開きでアポロ宇宙船を月まで運んだサターンロケットやアポロ計画の説明もありますから、アポロ世代のみなさんも楽しめることでしょう。

その後、未来の方法なども紹介されています。あっと驚くような方法もありますよ。

そして、最後のページが素敵です。「きみならどんな方法で月へ行きますか？」という一文と、驚きの絵。絵は見てのお楽しみです。

この本を読んで、お子さんと、お友だちと、月への行き方、考えてみませんか？

(塚田健、黄華堂通信 2011年1月号より)

## 2. 『音楽で聴く宇宙』

宇宙は見るだけではありません。音楽を通して宇宙を感じることができます。音楽で聴く宇宙では、宇宙に関係したクラシック音楽をご紹介します。

『月の光』

ドビュッシー ベルガマスク組曲

今回ご紹介するのは、ドビュッシー作曲『月の光』です。この曲は 1890 年にベルガマスク組曲（全 4 曲）の第 3 曲として発表されたピアノ曲です。

ほどよい緊張感の中をふわふわと漂うような、とても透明感のある美しい曲で、私の大好きな曲の 1 つです。

ドビュッシーは、ヴェルレーヌの詩「月の光」に影響を受けてこの『月の光』を作曲したのではないかとされています（諸説あります）。そのヴェルレーヌの詩は、

~~~~~  
“月の光（Clair de lune）”

君の心は 奇らかの貴なる風景、  
仮面仮装の人の群 窈窕として行き通ひ、  
堅琴をゆし按じつつ 踊りつつ  
さはさりながら  
奇怪の衣裳の下に 仄々と心悲しく。

誇りかの恋 意のままのわが世の春を  
盤渉の調にのせて 口遊み 口遊めども、  
人世の快樂に涵る風情なく  
歌の声 月の光に 入り乱れ、

悲しく美しき月魂の光 和みて、  
樹々に 小鳥の夢まどか、  
噴上げの水 恍惚と咽び泣き、  
大理石の像の央に 水の煙の姿たおやか。

（鈴木信太郎・河上徹太郎 訳、  
筑摩世界文学大系 48、筑摩書房）  
~~~~~

と訳されています。古い言葉で難しいですが、

「人生や愛に勝った人の表情は悲しげで、  
その物悲しい歌は月の光に溶け込む。  
悲しく美しい月の光は穏やかで、小鳥  
は眠り、噴水は恍惚と水を吹き上げ、  
像は水煙をまとう」

という感じでしょうか。表にあらわれることのない悲しみを月の光が癒し、やさしく穏やかな情景へと誘ってくれるような気がします。静かな夜に、月を見上げながらこの曲を聴いてみてはいかがでしょうか？

（田崎文得、黄華堂通信 2012 年 6 月号より）

文献

[1] メールマガジンの配信については、こちらから登録できます。

<http://www.mag2.com/m/0001114021.html>

鈴木 裕司